

## 農業改良普及員になって

倉吉農業改良普及所 眞山 仁

### 1 農業改良普及員とは一体？

私は平成28年4月に鳥取県職員として採用され、倉吉農業改良普及所に果樹の改良普及員（以下、「普及員」）として配属された。この日から普及員としての仕事が始まったが、「果樹農家に対して何を、どのように普及するのか？」という疑問があったことや、果樹の知識をほとんど持ち合わせていなかったことから、正直に言えば不安な気持ちでいっぱいであった。



### 2 ぼんやりとしたイメージで始まる普及活動

普及員の具体的な仕事がよく分からないまま1年目がスタートした。私は先輩普及員と一緒に担当地区を巡回して仕事の流れや、梨を中心とした果樹の知識や技術について学んだ。特に印象的であったのは6月の農家宿泊研修である。この研修で倉吉市のある梨農家の家に泊まり込み、梨の大袋かけ作業を中心に朝から夕方まで一緒に作業を行った。袋かけの方法やその作業の意味、高温の中で地道な作業を行う辛さも身を持って知った。夜にはお酒を飲みながら梨農家になった経緯や、梨作りに対する思いなど普段の会話からは聞くことができないような話もいただいた。そして私は、農家が抱く梨作りに対する情熱的な思いを知り、日々の作業の苦労を理解した上で普及員として農家と接する必要があることや、農家から色々な話をしてもらえる関係が大切であるということを感じ始めた。

普及員1年目が終わる頃には担当地区での基本的な流れや、梨栽培の年間スケジュールについて少しずつ理解してきた。最初は「栽培に関する専門的な技術や知識をある程度知らないで農家と話をするのもできないのではないかと不安な思いがあったが、「技術や知識をただ知っているだけでなく農家の思いを汲み取り、円滑なコミュニケーションを取ることが大切ではないのだろうか」という思いが変わっていった。

### 3 活動で分かる大切なこと

普及員として2年目を迎えると、剪定から収穫まで一通りの作業工程は理解できた。1年目に比べて1人で現場に出かけることも多くなり、農家との会話の中で梨栽培に関する簡単な質問に答えたり、病害虫の情報を伝えたりと、自分のイメージしていた“普及員”らしい活動ができたと思う。そして、それらの中でも、「普及員という仕事は楽しい」と感じる活動の数も増えていった。具体的な事例として、ある病害の多発により梨の収穫量の減少に悩む農家に対して有効な防除方法とその手順を示したことで、その農家も納得して同じように実施してくださった時である。他にも、私が主催した栽培技術の指導会に参加された農家から、「栽培技術に加えて、新品種の特性についても情報交換できる会でもあった。参加して良かった。」という声を聞くことができた時も楽しさや、嬉しさを感じる活動だった。

一方、失敗したことも多く、そのほとんどの原因がコミュニケーション不足による自分の勘違いであった。普及員として技術や知識は必須のスキルであるが、それ以上に農家の話を真剣に聞くこと、農家の話を理解した上で自分の考えを上手に伝える力が必要であると感じた。

### 4 普及員であるために

今年から3年目の普及員として活動していくことになるが、まだまだ技術や知識も不足しており普及員としての経験年数も足りない。そのため、これからも普及員としての経験を重ねていき、その経験を糧に私自身も成長できるように努力していきたい。そして、普段から誠実に、思いやり持って農家と接することを忘れないようにしていきたい。